

上方落語の定席、「天満天神繁昌亭」の昼席配信見放題のサービスが大好評。月額4980円(税込)で、昼席のオンライン配信が、一ヶ月見放題(アーカイブは一ヶ月)入会日から毎日視聴日の一ヶ月前までのアーカイブもあわせてごらん頂けます(一部出演者を除きます)。

購入方法、出演者は「繁昌亭、菟道亭」で、検索たのんまず。お問い合わせは、菟道亭077・438・2880、繁昌亭06・6352・4874。よろしゅうお願い致します。

○水の都大阪

「水辺大落語祭」大盛況

昨秋、大阪の大川や、中之島など水辺に近い会場での落語会全七公演が、満員御礼大盛況、それに先立ち、上方落語協会の笑福亭仁智会長、六代枝文枝前会長ら、約30名の落語家と関係者が「顔見せクルーズ」として、落語や浪曲でおなじみの「三十石」で知られる八軒家浜を出て、土佐堀川を約一時間かけて航行。船上では、繁昌亭のほりを数本立て生のおはやしで、にぎやかに。川沿いや橋の上につめかけたファンの方々と共に「大阪締め」の手締め、上方落語協会宴会部長の、文福の

河内音頭や、林家そめすけのものまね。桂三象の踊りなどで、大いにもりあがった。

文鹿のCLOMBHU

新しい紺色の着物が仕上がりました。左の肩袖にはブロック体で大きな「鹿」の一字が染め抜かれ。左右胸は夫婦鹿の紋。後には三ツ柏、帯と帯との間には「鹿」の字が彫られたコバルト色をした焼き物の御守。腰には立行司のようにエンジ色の脇差しを手挟んでます。俺は何を目標してゐるんだろ？

まめだの無口なたぬき

世の中の不思議①季節は1ヶ月早いように思います。暦では3、4、5月が春、6、7、8月が夏、9、10、11月が秋、12、1、2月が冬となっていますが、体感的には12月はそんなに寒くないし、9月はまだ暑い。そういう観点から1、2、3月を冬、4、5、6月を春、7、8、9月夏、10、11、12月を秋にしてほしい。なぜそうしないのか？洋服の売り上げが落ちるから？クリスマスが秋だったら盛り上がりがないから？なぜだろう。季節と掛けて、入学、卒業、算数と解きます。その心は四季、式が気になります。

「文也の分野」第107回

コロナ自粛の影響なのか歳なのか脳も身体も劣化して来ました。ライザップのCMで大村崑さんがヨタヨタと反復横跳びをしていてそれがトレーニング後には素早く動けるってのがあってまあヤラセとは思って確かにはスローになるのよ本人はできてるつもりなのに。これもテレビCMでコンビニのレジで支払いもたつくばあさんの後ろで今風の若いのが足踏み鳴らしてイラついてるのかと思いきやラップで♪おばあさん焦るんじやねえ誰も怒ってねえ♪叩くより讚えあおう♪ってのがあるけど私は無理やわ後で舌打ちするわ。ただ年寄りやからって甘やかしたらあかんで小銭は用意しとけよ。

そんな人間の経年劣化が生み出した奇跡やないかと思うのが年寄りの自転車やね。これは運のりの新競技か!!と思うほど年寄りの自転車は遅い。ようこけんもんやと感心するほど遅い。つまり歳を食うと身体も脳も劣化し退化するんで。何より年寄りにはよう居眠りする。昔田舎でじいさんが縁側でうつらうつらしてて死んでるんかとか心配したもんやけど今は私がよくうつらうつらして。いやもううつらうつらを通り越して夕方相撲を見ながらガッツリ寝てる。実はたった10分程やの目を覚ますとなぜか「いかに

いかに」と後ろめたい。けどどううつらうつらは年寄りの特権やと思う。堂々とうつらうつらしたううつらする、朝から遠慮なくうつらうつらしてやる、まっそのうち死んでるんかもしれんけど...

文喬のぶんきょうチツク

高校時代、仲良しグループ五人で夏休みは勿論、冬休みや春休みには必ず旅行をしていた。五十五年前のことである。久しぶりに彼等と旅行がしたくなり、年賀状を頼りに電話をした。まずはリーダー格のT君に。どうやっても連絡が取れない。聞けば事業に失敗して行方不明とのこと。次に小中校とずっと一緒やった幼馴染みのK君ですが、彼は若年性認知症を患い、六十年来の友達である筈の僕のことをすっかり忘れてしまっていた。三人目のS君は、高校時代から肥満気味でしたが、より一層、肥満に磨きがかかり、心臓病で遠出は無理とのこと。残りはN君。彼は健康で最近も一緒に飲みに行ったんですが、その帰りに小石に蹴つまずいて、手を骨折し、半月板の損傷で暫くは動けないらしい。ああ、歳は取りたくないなあ。仕方ないので僕一人で高校時代、行けなかった北海道へ彼等の気持ち背負って行くこと

枝女太の「和」のころ

日本的なものと西洋的なもの、このふたつのものの違いにそれぞれの宗教観による違いということを前号で書きました。日本でも西洋でも原始的な宗教では神がいてそれを恐れるところから始まったものと思われます。そのうち進化し、西洋ではこの世界は神が作ったものという考え方が主流になります。日本でも世界は神が作ったものなのですが、西洋の感覚と少し違うのは作られた物、木でも山でも岩でもすべての物に神が宿るといって考え方になっていきます。

そうなるのでできるだけ自然のままに使ったり自然のままをいただくという感覚になっていきます。和食はかたちを変えないように和風建築はできるだけ自然の素材を、楽器でもそうで。あまり加工を加えないで音の出るものを。笛や太鼓ですね。金属加工の技術が遅れたのも理由ですが、なぜ遅れたか。自然と共に生きていくうえで必要を感じなかったからでしょう。そういう生き方は人間社会そのものにも影響します。それが「和」を生み出します。ここからはまた次号で。